



2026年2月10日

各位

会社名 太平洋セメント株式会社
代表者名 代表取締役社長 田浦 良文
(コード番号 5233 東証プライム、福証)
問合せ先 総務部長 持松 直孝
(TEL 03-5801-0364)

フィリピン連結子会社の減損損失（連結）及び当該会社の関係会社株式評価損（個別） の計上並びに2026年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2026年3月期第3四半期（2025年4月1日～2025年12月31日）において、フィリピン連結子会社の固定資産に係る減損損失（連結）及び、当該会社の関係会社株式評価損（個別）を計上することとなりました。あわせて、連結業績予想（2025年11月11日公表）及び個別業績予想（2025年5月13日公表）を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

なお、配当予想につきましては、前回発表予想から変更ございません。

記

1. 減損損失（連結）の計上について

フィリピンにおけるセメント製造・販売を事業内容としている当社の連結子会社であるタイヘイヨウセメントフィリピンズ株式会社において新型コロナウイルス影響後の金利上昇及び需要の停滞を踏まえて事業計画の見直しを行うとともに、減損テストを実施した結果、当社の2026年3月期第3四半期（2025年4月1日～2025年12月31日）の連結決算において、減損損失244億円を特別損失として計上いたしました。その主なものは工場建物、製造用機械設備等であります。

当該子会社の概要

(1) 名 称	タイヘイヨウセメントフィリピンズ株式会社 (TAIHEIYO CEMENT PHILIPPINES, INC.)
(2) 所 在 地	フィリピン セブ市
(3) 代表者の役職・氏名	取締役社長 宮下 隆
(4) 事 業 内 容	セメントの製造販売
(5) 資 本 金	16,090百万フィリピンペソ（2025年12月31日現在）
(6) 出資者及び持分比率	太平洋セメント（株） 100%

2. 関係会社株式評価損（個別）の計上について

上記の減損損失に伴い、当該会社に対する株式の実質価額が著しく下落することとなったため、2026年3月期第3四半期（2025年4月1日～2025年12月31日）の個別決算において、関係会社株式評価損378億円を特別損失として計上いたしました。

なお、関係会社株式評価損につきましては、連結決算上消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

3. 業績予想の修正

2026年3月期通期連結業績予想数値の修正(2025年4月1日～2026年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 906,000	百万円 70,000	百万円 68,000	百万円 45,000	円 銭 403.75
今回修正予想 (B)	906,000	70,000	69,000	17,000	152.52
増減額 (B-A)	0	0	1,000	△28,000	
増減率 (%)	0.0	0.0	1.5	△62.2	
(ご参考) 前期実績 (2025年3月期)	896,295	77,750	75,374	57,428	502.48

2026年3月期通期個別業績予想数値の修正(2025年4月1日～2026年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 355,000	百万円 44,000	百万円 40,000	円 銭 358.10
今回修正予想 (B)	342,000	44,000	1,000	8.95
増減額 (B-A)	△13,000	0	△39,000	
増減率 (%)	△3.7	0.0	△97.5	
(ご参考) 前期実績 (2025年3月期)	333,466	38,154	17,297	150.98

4. 業績予想修正の理由

(連結)

経常利益については、為替差益の計上等により前回予想を上回る見通しです。

親会社株主に帰属する当期純利益については、上記「1. 減損損失（連結）の計上について」のとおり、減損損失 244 億円を特別損失として計上したこと等により前回予想を下回る見通しです。

(個別)

売上高については、国内における需要減により前回予想を下回る見通しです。

当期純利益については、上記「2. 関係会社株式評価損（個別）の計上について」のとおり、関係会社株式評価損 378 億円を特別損失として計上したこと等により前回予想を下回る見通しです。

※上記の予想数値は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、経済情勢、市場需要、原燃料価格、為替レート等様々な要因により大きく異なる可能性があります。

5. 今後のフィリピン事業について

当社としては、フィリピンのセメント市場について、フィリピン経済の成長に伴い中長期的には需要拡大が続くという見通しに変更はございません。引き続き、タイヘイヨウセメントフィリピンズ株式会社を東南アジアの事業基盤強化に重要な拠点と位置づけ、喫緊の課題である収益改善に向けてコスト削減や販売数量拡大の各種取り組みを進めてまいります。

以上